Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Relationship between achievement of physical activity goal and characteristics of patients with rheumatoid arthritis

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 望月, 猛 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032097

主 論 文 の 要 約

Relationship between achievement of physical activity goal and characteristics of patients with rheumatoid arthritis（関節リウマチ患者における身体的活動量の目標達成と患者背景の関連）

東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター
指導：山中　寿教授　㊞
望月　猛

Modern Rheumatology 電子版（平成 29 年 9 月 12 日発行）に掲載
DOI：10.1080/14397595.2017.1371104.

【目　的】

関節リウマチ(Rheumatoid Arthritis：RA)に対する治療目標のひとつは機能的寛解とされているが、実際に身体的活動が出来ているとは限らない。本研究の目的は RA 患者の身体活動量の目標を達成するための関連因子を同定することである。

【対象および方法】

RA 患者 137 例を対象とした。活動量計用いて身体的活動量を 2 週間計測し、最大活動量 2 日の平均を活動量値とした。目標活動量である 286kcal/日以上を目標達成と定義した。目的変数を身体活動量目標に対する達成の有無、説明変数を年齢、罹病期間、Body Mass Index (BMI)、患者 VAS、疼痛 VAS、CRP 値、血沈 1 時間値、MMP-3 値、Disease Activity Score 28、Health Assessment Questionnaire Disability index (HAQ-DI)とし、ロジスティック回帰分析にて身体的活動量目標達成の関連因子を検討した。

【結　果】

身体的活動量目標を達成しえたのは 57 例(41.6%)であった。関連因子は年齢(P=0.001)、BMI(P=0.014)、疼痛 VAS(P=0.023)、HAQ-DI(P=0.043)であった。receiver operating characteristic 解析では HAQ-DI のカットオフ値は 0.3(感

度 48.8%、特異度 89.5%、AUC 0.735)であった。

【考　察】

RA 患者に対する運動療法の有効性は多く報告されている。一方、運動療法を施行するためには運動ができる身体状態であることが必要である。既報では身体的活動には年齢、性別、疾患活動性、肥満、疼痛、倦怠感などが関連因子である。本研究でも年齢、BMI、疼痛 VAS、HAQ-DI が関連因子であった。リウマチの初期治療目標には臨床的寛解があるが、本研究では疾患活動性が抑制された臨床的寛解状態であっても活動量目標達成率は 50.5-60.0%であった。国際的 Task force よりリウマチ患者が長期にわたり身体的機能が正常であることを目標とすることが挙げられており、本研究結果により身体的活動量の目標を達成するためには HAQ-DI は 0.3 以下であることが判明した。これは機能的寛解である HAQ-DI<0.5 より高い治療目標となる。HAQ-DI≦0.3 を身体的寛解と考え、リウマチ患者においても健康寿命の延伸を考えた治療目標となり得ると考えている。

【結　論】

RA 患者の活動量には年齢、BMI、疼痛 VAS、HAQ-DI が関連し、活動量目標達成のためには機能的寛解より高い目標となる HAQ-DI≦0.3 に保つ必要がある。